



平成26年度の自然学校を振り返って Part 2

前回の30号では、各利用校の担当者が記入された実施報告書をもとに、平成26年度の自然学校を振り返りました。今回は、帯同救急員からのアンケート結果をまとめたので、子どもたちの健康面について、来年度の自然学校に活かしてください。

利用51グループのうち、アンケート回答者は37グループ42名。(複数の帯同救急員の回答あり)

1 利用校との事前打合せについて

(1) 打合せの有無

	人数	割合
有り	39	92.9%
無し	3	7.1%
無回答	0	0.0%
計	42	100.0%

(2) 打合せの方法(「有り」と回答した39人の回答)

	人数	割合
電話	7	17.5%
学校	32	80.0%
その他	1	2.5%
無回答	0	0.0%
合計	40	100.0%

※複数回答あり
「その他」は、資料の郵送

利用校との事前打合せについては、「有り」と回答した人の80.0%が学校で直接、担当者等と顔を合せての打合せが行われています。帯同救急員、指導補助員や引率する先生方等、全ての指導者がそろって、事前打合せ会を実施している学校もあります。帯同救急員の都合により、学校に行けない場合もあり、電話での打合せをしている学校が17.5%でした。私が連合小学校の当番校で担当者をしていたときは、「アテンダントナース」に依頼したため、遠方の方々が当日になって初めて出会ったので、事前に資料を送り簡単に電話で打合せをした程度でした。指導補助員に対しても同様の対応でしたが、子どもたちの健康面や身体面に対する理解を得ることが大切であるので、時間をかけて、指導補助員よりも帯同救急員に対して説明をしたのは言うまでもありません。

昨年度お世話になった、また経験の豊かな帯同救急員であっても、子どもたちの様子は違うので、何らかの事前打合せは必要となります。

2 子どもたちの健康状態について

(1) 子どもたちが4泊5日間、元気に過ごせたと思うか

	人数	割合
はい	27	64.3%
いいえ	10	23.8%
どちらともいえない	2	4.8%
無回答	3	7.1%
合計	42	100.0%

(2) 元気に過ごせたと思われる理由(一部抜粋)

- ・食事をしっかり摂取できていた。
- ・少人数の学校で管理しやすかった事もありますが、季節柄熱中症等の対策について、出発前からプログラムに合わせて細かく想定し、水分補給をはじめあらゆる

る方法を考慮してスタッフの役割分担を行いました。

- ・出発3日前から朝夕の検温と排便、睡眠、食事の様子を表にして提出してもらい、さらに行程中は毎日同様のチェック表に個人個人で記入を行い管理しました。
- ・来る前より健康に注意してきて、夜はよく眠っているようでした。
- ・健康チェックの情報が事前に把握できていたため、毎日の健康チェック表より早め対処できた。
- ・自然でののびのびした環境、おしゃれな建物、清掃の行き届いたお部屋、自然学校の職員方の細やか

な指導のおかげで元気に過ごせたと思います。

- ・天候などで気温も下がり、体調が心配でしたが、咽頭痛を訴える児童が何名かいたものの高熱が出ることもなく無事に過ごせました。うがい励行・水分摂取はしっかりと伝えました。保健係の児童がしっかりと動いてくれたと思います。また、事前の保健調査があり、早期に対応できました。

(3) 元気に過ごせなかったと思われる理由（一部抜粋）

- ・ストレスによるものか？嘔吐、下痢、発熱する児童が比較的多い。
- ・後半、暑くなり鼻血を出す子どもが多かったし、しんどくなった子どもが数名いました。
- ・発熱(咳、咽頭痛、鼻汁等も)で1日目から帰宅する児童もあり、健康チェックの必要性を感じました。
- ・軽度の熱中症、発熱、食物アレルギー(アナフィラキシー)等々、発症したお子さんが数名いました。
- ・昨今、メンタル面の弱い子が多く、ささいな事でも対応が必要なケースがある。病院受診3名。
- ・環境の変化で体調を崩した子どもたちがいました。
- ・1名打撲にて病院受診した児童がいたこと、また自然学校前からの体調不良が長引き積極的に活動できない児童もいた。
- ・骨折疑いや体調不良で病院へ行ったり、帰宅してしまったりしたため。
- ・前々日に発熱があり、当日解熱され母親が参加希望された。結局、病院受診となり帰宅される。母親も発熱があった時点で病院にも受診されていなかった。当日に説明があれば、受診してからでも自然学校に参加できたのではと思いました。
- ・各活動に移動時間が含まれておらず、子どもたちがトイレに行く時間などをとることができていなかったと思います。
- ・フリータイムが時間的に多いと思ったのですが、入浴と食事の時間が少なすぎるので、時間調整も今後検討できれば良いと思いました。

自然学校期間中の健康状態について、64.3%の帯同救急員が「子どもたちが4泊5日間、元気に過ごせていた」と回答されています。元気に過ごせた要因として、「食事」「睡眠」「水分補給」「排便」「健康観察」等が挙げられています。生活環境が変われば、家にいるのと同じように生活することが大人でも難しいのに、子どもたちが対応できているのは、学校や家庭での事前指導の賜と考えられます。普段の生活では、昼間は学校で夜間は各家庭となり自分だけの時間と空間が確保されています。それに対して、自然学校期間中は、ずっと集団生活であり、ストレスが溜まり、ストレスを発散する場がありません。肉体的よりも精神的に疲れることが多いと思われます。その結果、寝不足になったり、便が出なかったりして、食事が十分に取れないこともあり、体調を崩す子どもがいます。朝起きてから、夜寝るまで、ぎっしりと活動が詰まっている学校があります。「フリータイム」と言いながらも、スタンプの練習であったり、班員で一緒にいたりして、一人でのんびりと過ごす時間が確保されていない学校もあります。一日の半分近くを自由に生活していた子どもにとっては、たとえ仲の良い友だちと一緒にあっても、「楽しい」というよりも「苦痛」と感じるのも無理はないと思います。子どもたちには、家庭と同じようにリラックスする場と時間を与えてほしいものです。クラス数が多くなれば、時間的な制約から食事や入浴時間が短くなることも仕方ないと思いますが、前後の時間をたっぷりと確保してください。

また、夜間はどうしてもという活動以外は、何も組み込まないように、そんな日があってもいいと思います。昼間は活発に活動して、夜間はゆっくりと体を休めるというのが、人間の本来の在り方であり健康を害することは少ないと考えています。そんなタイムスケジュールを考えてみてはどうでしょうか。

編集後記

帯同救急員は、先生方と同じ引率者ですが、「お母さん」的な役割があると思います。先生方とは違った立場で、子どもたちの健康面を考えている方々の考えを知ること、安全安心な自然学校となるよう、今回の指導課だよりを作成しました。 (文責 主任指導主事兼指導課長 北條 勝也)